

# 令和3年度学校自己評価システムシート（県立大宮高等学校）

目指す学校像	勉強と部活動等の両立の実践と自主自律の精神の涵養により、高い志と強い使命感を持った トップリーダーを育成する学校
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と創造性を備え、主体的に課題解決に取り組む人材を育成する。 2 学力の向上を図り、生徒一人一人の進路希望を実現する。 3 校内の安心・安全の確保の徹底と積極的な情報公開により、県民の期待や信頼に応える。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の  
学校評価懇話会を開催し、学校自己評  
価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 （ 2 月 1 日 現 在 ）		
年 度 目 標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	本校生徒は総じて学習や部活動、学校行事等に意欲的に取り組む。他者と協力することは得意であるが、主体的に判断し、表現する機会が不足している。 高校生活における様々な活動・体験を通して多様な価値観に触れ、他者との調和を重視しつつ主体的に判断する能力と適切な表現力を有し、総合してリーダーに求められる「課題解決能力」を持つ人材を育成することが課題である。	校内・校外での様々な取組を通じ、多様な価値観やモデルに触れる機会を提供する。	① 各種講演会の実施や総合的な探究の時間の活動をとおして、多様な価値観やモデルを提示し、自己の在り方生き方を考えさせる。 ② 県主催の事業や学校外でのボランティア活動等への参加を促す。 ③ 理数科実施の多彩な取組により、世界をリードする科学技術系人材を育成するプログラムを推進する。	① 講演会の実施状況及び生徒提出物や生徒面談等による成果の検証 ② 生徒の参加希望及び参加者数（例年と同程度以上） ③ 生徒・保護者アンケートの結果の回答（生徒：昨年度以上、保護者80%以上）	① 感染症の影響が続いているが、オンライン利用を含め、多種の講演会を実施した。各種講演会や総探などに卒業生を活用し、多様な価値観とキャリアモデルを提示することができた。 ② 感染症の影響により、殆どの事業が中止となった。 ③ 県の人材育成事業の指定校として、理数科を中心としたセミナーや見学会などを実施した。保護者アンケートの結果、本校の理数教育に関する肯定的回答は65%（昨年度73%）。	A	・今年度中止となった取組について、再開準備を進めノウハウの継承に努める。 ・目指す学校像・重点目標と各取組の繋がりを明確にし、目的を共有する。 ・理数科事業その他各種取組の情報公開により、認知度及び成果の向上を図る。
		他者と協働する取組を推進しつつ、自らの考察を表現する機会を提供する。	④ 授業及び総合的な探究の時間等における協働的な活動及び表現活動を推進する。 ⑤ 各種学校行事や部活動、エンパワーメントプログラム等の活動を通して、積極的に他者と協働して活動させる。	④ 協働的な活動・表現活動の実施状況 ⑤ 学校行事・部活動の実施状況及び成果の検証 生徒の参加希望及び参加者数（例年と同程度以上）	④ 平時より非常に多くの授業で協働的な活動を実施している。 ⑤ 感染症の影響もあり、中止となる行事もあった。感染症対策をしながらできる限り実施に努めた。部活動の加入率は95.2%[運動部53.5%、文化部41.7%]（昨年度95.6%）。	B	・授業における協働的な活動に加え、オンラインを活用した授業展開について研究を進める。 ・学校行事等における生徒の主体的な活動を促すための方策を検討する。
2	授業を中心とする学習指導方針の下、個々の教員の授業研究は進んでいるが、教員相互の授業改善の取り組みが相対的に不足している。また、生徒の進路希望の実現は全体的に向上しているが、生徒個々に対応した適切な指導が求められている。 教員間を含めた「学びあいの風土」を醸成することで生徒の学習環境を改善するとともに、高度な知識基盤に立った広い視野と深い洞察力を獲得させる授業を展開し、結果として生徒一人一人の進路希望の実現を図る。	授業手法及び授業内容の改善に向けた、組織的な取組を推進する。	① 教員相互の授業見学や研究授業の実施等により、指導技術等を向上させる。 ② 県事業等を活用し、校内で主体的・対話的で深い学びを推進する。 ③ 総合的な探究の時間において、現代社会に求められる資質の育成に効果的なプログラムを実施する。	① 授業見学・各種セミナーの参加教員数及び研修内容を教科指導に反映させた教員数（例年と同程度以上） ② 主体的・対話的で深い学びを推進する教員数（自己評価シートへの記載）及びその実施状況と成果の検証 ③ 着実な実施及び成果の検証 次年度に向けた課題の整理	① 教員対象セミナー参加人数のべ54名。（動画研修形式が多くなったことから、昨年度より増加した。） ② 未来を拓く「学び」プロジェクトに研究開発員として参加した教員3名。主体的・対話的で深い学びを意識した授業について、多くの教員が自己評価シートに記載している。 ③ 総合的な探究の時間は、感染症の影響による計画の変更のほか、昨年度の企画の良さを取り入れながら実施した。	A	・授業見学等の授業研究の在り方について、個人から教員相互・教科へと発展させるための取組が必要である。 ・主体的・対話的で深い学びの在り方について、引き続き研究を進める。 ・総探については、引き続き改善を進める。
		全体への系統的指導と個別指導を進路指導計画に位置づけ、推進する。	④ 3年間の進路指導計画に基づき、本校独自資料の作成、進路講話や講習等を着実に実施する。 ⑤ 生徒理解に基づき、生徒一人一人の実情に即した面談や指導を丁寧に行う。	④ 本校独自資料の作成、講話・講習の実施と成果の検証 ④⑤ 保護者アンケートの結果で肯定的回答（80%以上）	④ 「学習の手引き」「進路資料」「難関大入試分析」を計画どおり作成した。進路講話及び講習は、実施形態の変更や日程などについて感染症の影響による変更を重ねつつ、着実に実施した。 ⑤ 保護者アンケートの結果、本校の進路目標に関しては肯定的な回答が77%（昨年度84%）、進路指導に関しては66%である。	A	・進路講話や講習等を計画的に実施する。 ・アンケートの結果を教員間で共有して課題を明確化する。課題の解決に向けた実践を開始する。
3	校内の安心・安全の充実に向け、教育相談体制の整備等が図られてきた。また、学校説明会及びHPを活用した情報発信にも努めている。 これまでの取組を継続的に発展させることにより、本校の魅力を向上させ、生徒がより高く誇りを持ち、県民から更に応援される学校をつくるのが課題である。	生徒・保護者の安心・安全に向けた体制・環境整備を実施する。	① 担任面談を適宜実施する。 ② 救急法講習会の実施や学校独自のスクールカウンセラー依頼等、生徒の心身の健康に配慮する。 ③ 施設設備の改善や校内環境の改善に向けて、組織的に取り組む。	① 実施状況 ② 講習会の実施状況 スクールカウンセラーの依頼状況及び成果の検証 ③ 校内組織の活動状況 改善の取組状況	① 各担任が年4回程度の面談を実施した。 ② 救急法講習会は、生徒向け1回実施。教員対象も人数を制限して実施。 スクールカウンセラーは月2回程度依頼。 ③ 大規模改修を行い、各施設設備の改修を進めた。感染症対策方針を更新し、関係部署を中心に、感染症対策の徹底を図っている。	A	・これまでの取組を着実に推進する。 ・教育相談の組織体制や運営方法の改善を図る。 ・感染症対策については新たな情報に基づき、迅速に対応する体制を継続する。
		学校説明会の実施及びHPの更新により、情報発信力の強化を図る。	④ 学校説明会等や校外での説明の機会を積極的に活用して、生徒募集に積極的に取り組む。 ⑤ HPの適時更新に努める。 ⑥ 保護者への情報伝達の改善を図る。	④ 参加者数、参加回数、募集倍率 ⑤ 更新回数、HP閲覧状況 ⑥ 保護者アンケートで肯定的回答（80%以上）	④ 学校説明会を4回実施、夏季学校説明会は感染症のため中止した。募集倍率は普通科1.44倍、理数科2.23倍。 ⑤ 学校HPは、緊急時の連絡手段として機能した。また、連絡アプリを導入し、欠席連絡や保護者への緊急連絡に役立った。保護者アンケートの情報公開についての項目において、肯定的回答は60%程度である。	B	・目指す学校像や本校の魅力等について、校内での共有及び校外への発信を行う。 ・保護者への情報公開について、情報伝達方法の改善を図る。

学校関係者評価	実施日 令和4年3月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決能力の育成は難度の高い目標でもあり、苦勞していると思うが、解決を諦めてしまう、自分事として捉えない、あえて触れないといった態度にならないか、危惧している。</li> <li>・大宮高校の使命であるこれからの時代を主体的に生き抜くリーダーの育成のため、今後も多様な学びの機会を提供してほしい。</li> <li>・対面で行うことの教育効果もあるので、可能な限りで対面での実施を模索してほしい。</li> <li>・PC関係の人財需要は数年で飽和すると思うので、多様な自然界の現象やモノの機能を司る理学や工学の面白さを素直に感じのめり込んでほしい、そういった資質を伸ばす指導をしてほしい。</li> <li>・感染症の対応をする中でも、学びを止めない取組を展開し、授業見学や研究授業を進めていて素晴らしい。</li> <li>・オンラインの利点を生かした工夫をして目標を達している。この利点はコロナの影響が減っても続けて活用してほしい。</li> <li>・感染症の影響もあるかもしれないが、教育相談や情報公開の評価が伸び悩んでいるため、コミュニケーションサイクルが途切れがちでないか検証すべきである。</li> <li>・学校のホームページは充実していて好印象である。</li> <li>・理数科の男女の偏りが気になる。ホームページでも複数の女子生徒が映っている写真等を利用するなど意識してほしい。</li> </ul>